

防災学習 キャリア発達段階表（新）

目指す児童生徒像		防災に対する意識を高めるとともに、安心安全で楽しい学校生活を送れる							
項目	項目の目標	小学部			中学部		高等部		
		1段階	2段階	3段階	1段階	2段階	1段階	2段階	
備える	災害を知る	地震のメカニズムや緊急地震速報の意味や仕組みを理解し、発災時の身の回りに起こる状況の変化に対応する能力の育成を目指す。	○緊急地震速報や支援者からの避難の声掛けに反応できる。 ○地震とは何かを知る。	○緊急地震速報や支援者からの避難の声掛けに反応し、支援を受けて身の回りに起こる状況の変化を知る。	○緊急地震速報や支援者からの避難の声掛けに気づき、身の回りに起こる状況の変化を知る。	○地震の時に起こる危険を知り、正しい判断と安全な行動を知る。 ○自分の住む地域で発生する災害状況を知る。	○地震の時に起こる危険を知り、正しい判断と安全な行動、危険に対する心構えを知り、災害時に備えることができる。	○南海トラフ巨大地震の大まかな仕組みを知る。自分の住む地域や学校、通学路に発生する危険を知る。	○地震・津波発生メカニズムを知り、地震時に発生する様々な危険について知る。また、正しい情報の入手の仕方について知る。
	知恵と備え	学校及び地域の備蓄品倉庫の場所や備蓄品の内容を知ったり、備蓄品の使用方法や流通経路について考えたりする力を育成することを旨とする。	○支援を受けながら、備蓄品を使用したり、備蓄品を食べたりすることができる。	○支援を受けながら、学校の備蓄品倉庫の場所や備蓄品の内容を知る。	○学校の備蓄品倉庫の場所や備蓄品の内容を知る。 ○備蓄品がなぜ必要なのかわかる。	○学校の備蓄品倉庫の場所や備蓄品の内容を知る。 ○備蓄品がなぜ必要なのかわかる。	○学校の備蓄品倉庫の場所や備蓄品の内容を知る。また、備蓄品の種類や保存期間についても知る。	○学校及び地域の備蓄品倉庫の場所や備蓄品の内容を知る。また、備蓄品の使用方法について知る。	○学校及び地域の備蓄品倉庫の場所や備蓄品の内容を知る。また、備蓄品の使用方法や流通経路について知る。
命を守る	揺れから自分を守る	どのような時間帯・場所・状況においても、自ら（他者と一緒）に判断し、適切な避難行動をとることができる力を育成することを旨とする。	○揺れや緊急地震速報に反応できる。	○揺れを感じたり緊急地震速報を聞いた時、支援を受けながら、揺れがおさまるまで静かにダンゴムシのポーズがとれる。	○揺れを感じたり緊急地震速報を聞いた時、支援なしで、揺れがおさまるまで静かにダンゴムシのポーズがとれる。	○揺れを感じたり緊急地震速報を見聞きした時、「落ちてこない」「倒れてこない」場所を探してダンゴムシのポーズがとれる。	○様々な場面に応じた身の守り方ができる。	○様々な場面に応じた身の守り方ができ、安全な行動ができる。	○様々な場面に応じた身の守り方ができ、パニック防止と安全な行動ができる。
	津波からの迅速な避難	どのような時間帯・場所・状況においても、自ら（他者と一緒）に判断し、適切な避難行動をとることができる力や周囲の状況を把握し、避難した場所の安全を確認することができる力を育成することを旨とする。	○支援者からの避難行動の支援に反応できる。	○揺れを感じたり緊急地震速報を見聞いた時、支援を受けながら、高い所に急いで避難できる。	○揺れを感じたり緊急地震速報を見聞いた時、支援を受けながら、落ち着いて高い所に急いで避難できる。	○揺れを感じたり緊急地震速報を見聞いた時、一人で落ち着いて高い所に急いで避難できる。	○揺れを感じたり緊急地震速報を見聞いた時、一人でより高い所に急いで避難することを覚える。支援を受けながら、高台や避難経路を確認しておくことができる。	○揺れを感じたり緊急地震速報を見聞いた時、一人で判断して避難することができる。高台や避難経路を確認しておくことができる。	○安全な避難場所及び避難経路の確認と避難の仕方ができる。
	いつ、どこにいても自分を守る	通学路の避難経路や避難場所及び危険箇所を確認したり、登下校中の地震発生時に移動手段（公共交通機関、自転車、徒歩）に応じた避難行動をとったりすることができる力を育成することを旨とする。	○支援者からの支援（移動する、頭を守る）に反応し、一緒に行動できる。	○発災時には、支援者と一緒倒壊物から離れた安全な場所に身を寄せ、持ち物等で頭を守る行動をとることを覚える。	○発災時には、支援を受けながら倒壊物から離れた安全な場所に身を寄せ、持ち物等で頭を守る行動をとることを覚える。	○発災時には、支援を受けながら倒壊物から離れた安全な場所に身を寄せ持ち物等で頭を守る行動を落ち着いてとることを覚える。	○発災時には、一人で適切に判断し、倒壊物から離れた安全な場所を身に寄せ、持ち物等で頭を守る行動をとることを覚える。	○支援者とともに通学路の避難経路や避難場所を確認する。通学路の橋や崖等の危険箇所を確認し発災時は避け、安全な道を探して避難することを理解する。	○通学路の避難経路や避難場所を覚え、通学路の橋や崖等の危険箇所を確認して発災時は避け、安全な道を探して避難することを理解する。
	二次災害への対応	揺れの後は、火災や液状化、土砂災害の可能性があることを知り、想定外のことに直面し様々な意思決定を迫られる場面があることを理解する力を育成することを旨とする。	○支援者からの支援（移動する、頭を守る）に反応し、一緒に行動できる。	○動けるくらいの揺れになったら、支援を受けながらすぐに安全な場所に避難する。 ○支援を受けながら、「おはしも」を守り、急いで避難することを覚える。	○動けるくらいの揺れになったら、支援を受けながらすぐに安全な場所に避難する。 ○「おはしも」を意識し、訓練で身に付けた行動で迅速に避難することを理解する。	○動けるくらいの揺れになったら、迅速に安全な場所に避難する。 ○事前に確認していた二次災害の恐れがある危険箇所には近づかないように避難することを覚える。	○津波や土砂災害などの二次的な災害を理解し、安全に行動することができる。	○津波や土砂災害などの二次的な災害の理解及び危険に対する心構えをし、安全に行動することができる。	○地震時に発生する様々な危険の理解と正しい情報の入手を行い、安全に行動できる。
助ける人になるための行動	周囲の状況を判断し、情報の発信、初期消火や応急手当等の補助ができる力を育成することを旨とする。	○支援者と一緒に、身の回りの人に挨拶することや掃除や後片付けをすることができる。	○支援を受けながら、身の回りの人に挨拶することや掃除や後片付けをすることができる。	○身の回りの人に挨拶することや掃除や後片付けをすることができる。	○災害発生時には、支援が必要な人がいることを理解する。 ○災害時には、自分の安全を確認し、周囲の人に知らせる、掃除するなどの自分のできることを理解し、行動する。	○災害時には、自分の安全を確認し、周囲の人に知らせる、瓦礫撤去などの掃除、自分のできることを理解し、行動する。	○周囲の状況を判断し、情報の発信、応急手当等の補助ができる。	○周囲の状況を判断し、情報の発信、初期消火や応急手当等の補助ができる。	
暮らしを取り戻す	みんなで生き延びるための知恵と技	災害後の生活の様子や避難所の特徴と課題を知り、集団生活のルールやマナーを守り、我慢する、みんなで助け合う、協力する等の自分にできることを思考し判断する力を育成することを旨とする。	○身の回りの簡単なきまりに従って支援者と一緒に行動し、簡単なきまりについて関心をもとうとする。	○身の回りの簡単なきまりやマナーについて知り、それらを守ることを理解する。	○日常生活の簡単なきまりやマナーに関する知識や技能を身に付け、それらを守ることを理解する。	○避難生活においては、支援を受けながら集団生活のルールやマナーを守り、我慢したり、分け合ったり、協力したりすることを理解する。	○避難生活においては、集団生活のルールやマナーを守りながら過ごすことを覚える。	○避難生活においては、集団生活のルールやマナーを守りながら過ごすことができる。	○避難生活においては、集団生活のルールやマナーを守りながら過ごすとともに、住民と協力することができる。
	地域社会の一員としての心構え	周囲の状況や地域の人々の活動を知り、地域の一員として、自分にできる役割を考えて行う力を育成することを旨とする。	○簡単な身近処理に関する初歩的な知識や技能を支援者と一緒に身に付けようとする。	○支援を受けながら簡単な身近処理に関する初歩的な知識や技能を理解し、身近処理に関する基礎的な知識や技能を身に付けようとする。	○必要な身近処理や集団での基本的な生活習慣を理解し、身近処理等に関する知識や技能を身に付けようとする。	○身の回りのことで自分でできることを増やす。 ○地域の防災に関わっている人の働きを知る。	○地域の防災に関わっている人の働きを知り、自分のできることを考えたり、行動したりすることができる。	○地域の活動へ参加することや防災活動には、どのようなものがあるのかを知り、防災訓練に参加する。	○地域の自主防災組織及び防災活動を知り、避難訓練に参加することができる。